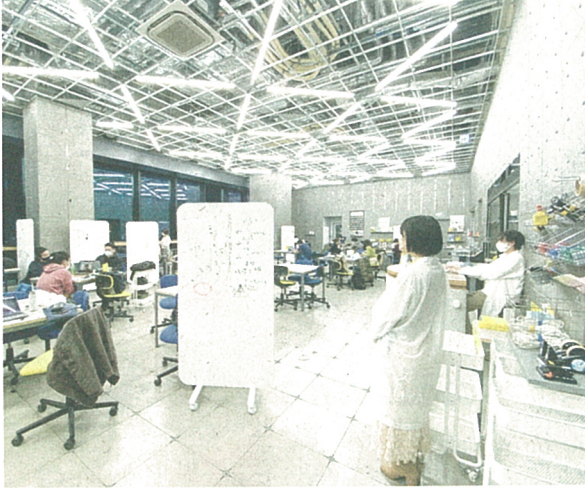


探訪 新ライフスタイル

「ブレイクスルー」とは、進化や進歩の障壁を突破して解決することの意味する。企業においてはこの能力に秀でた人材を生かすことが成長力につながる。価値観が大きく変化するなど不確実性が高まっている。定石が通じない時代ではイノベーション力が勝敗を分ける。渋谷スクランブ

ライフスタイル

渋谷の人材交流で生まれる革新



「問い」をきっかけにした複数のプロジェクトに多様な人材が関わる(渋谷キューズ)

「問い」をきっかけに価値創造

ルスクエア(東京・渋谷)では、ブレイクユーズ」では、ブレイク内の産業交流施設「SHI スルー人材によって時代をBUYA QWS(渋谷キ切り開く実践的な取り組み

が始まった。

この交流施設は2019年11月に開業した。名称の「QWS」は「Questio

「2年間で151のプロジェクトが生まれ、『出会なきやいけなの?』。素材やデザインなど、女性の半数以上が感じていたシ

ーディングのスキルを持ち、人と人をつなげる役割を担う。プロジェクトのリーダーネーターとして問いの精度を高め、会員と共にカタチにしていく。

境が整った。視点を変えることで新しい気づきや発想が生まれる」と、館長の野村幸雄氏は語る。

「渋谷を『消費の終着点』として新しい気づきや発想が生まれる」と、館長の野村幸雄氏は語る。

着としてジョーツ一体型のリラックスウェアを考案。女性の肌優しいオーガニックコットンを使い、丁寧に縫製したはき心地良いシ

社内には周りの空気やしがらみに飲み込まれ、新たなビジネス創造は難しいと判断し、社員を常駐させて化学反応を期待する法人会員も多いという。

QWSは「Questio with sensibility」からとっている。単なるシェアオフィスと違って、全員の思いを込めて集まり、ビジネス、科学、アート、カルチャー、社会課題などに対する問いを持ってプロジェクトに取り組んでいた。類例のない

「渋谷を『消費の終着点』から、『消費の新しい循環の出発点』にシフトできないか?」「日本人の自己表現がもっと上手になるには

この交流施設で重要な役割を果たすのが問いの専門職である「コミュニケータ」だ。プロジェクトをゴールに導くファシリテーションや、ミーティング内容を整理するグラフィックレコ

SNS(交流サイト)やクラウドファンディングなど、個人の影響力が大きくなっている。交流施設は個人の好奇心や着眼点を生かすことにもつながりそう

知的横断による価値創造の共同體だったのだ。「アイフォーミー」と呼

「アイフォーミー」と呼ぶ。プロジェクトに関心を寄せ参加することで、自身を文字とイラストを使って整理するグラフィックレコ

を文字とイラストを使って整理するグラフィックレコ

注目していきたい。(商い創造研究所代表 松本大地)